

2017 SGH通信

【1年生配布用】

No.4 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

海外フィールドワークの報告をします！②

SGHでは、今年度も海外フィールドワークを企画しています。後日連絡しますが、6月14日（水）放課後には、説明会を企画しています。前回に続き、昨年度の様子、特に参加者が見て聞いて、感じたことを、昨年参加した現2年生の感想を掲載することで、皆さんにお伝えします。もともと参加したいと思っていた人だけでなく、これを読んで興味を持った人はぜひ、説明会に参加してみてください。説明会では、昨年参加した生徒がプレゼン発表を行います。

今回の報告は、「学校交流」「小児病院+α歴史文化散策訪問」編です。

【学校交流:シソワット高校(カンボジア)】

12月23日にシソワット高校を訪れました。この高校は1837年に創立されたプノンペン最古の学校です。校舎は8棟でサッカー場が1面、バレーコート・バスケットコートが2面あり、プノンペン最大の学校でもあります。また、生徒のレベルも高くカンボジア最高学府とされています。高校のカリキュラムとしては、カンボジアの母国語であるクメール語文学と数学、物理学の三つの特別クラスがあります。最近では、理数科目の世界大会で3位に入賞したそうです。理数科目に限らず、英語の力もかなりのもので私たちが聞き取るのに精一杯なくらい流暢に話していました。カンボジアでは小学校から英語が必修科目となっており、経験の差を身にしみて感じることもできてもっと英語の勉強をがんばろうと思いました。

私とペアになったシソワット高校の生徒は日本語を少し話すことができ、日本語で自己紹介をしてもらったときは驚きました。それに感銘を受けて、私もクメール語を教えてもらって数字だけ言えるようになりました。最後にはLINEの連絡先も交換して、お互いに親交を深められとてもよい経験を得ました。（現2年 女子）



【医療研究:アンコール小児病院】

1999年に認定NPO法人 フレンズ・ヴィズアウト・ア・ボーダーJAPANがアンコール遺跡のあるカンボジア王国のシェムリアップ市に開院した病院です。入院病棟、救急室、集中治療室、手術室、歯科、眼科等を備え、毎日400～600人をこえる子供たちが外来に訪れています。

カンボジアは人口の約39%が15歳未満の子供です。カンボジアの未来を担う子供たちの健康を守るために、アンコール小児病院は活動しています。アンコール小児病院では、患者はすべて無料で診察、治療を受けることができます。どうやって病院を運営しているのかと言うと、毎年2億円の寄付のみで運営しているそうです。病院に来た人達には、診察や治療だけでなく、健康によい食べ物、感染症の予防の仕方、野菜の育て方までも指導してくれます。カンボジアの学校には保健科目がなく、国民の健康への知識があまりありません。そのため、病院に来た人たちが、今後健康に暮らせて行けるサポートをしているそうです。

また、地方病院のレベル向上の援助に加え、遠い地区から来た人たちのサポートも行っています。アンコール小児病院には、最高レベルの医療を求め、カンボジア全土から患者が集まってきます。そのため、遠くから来た人たちは宿泊を強いられます。病院はそういった人たちのために、家族の分の米、肉、魚などの食料と台所、シャワー、寝床等を提供しています。

しかし、アンコール小児病院には寄付だけでは運営が厳しいこと、施設が足りないこと、専門医が足りないことなどの多くの課題が残っています。私たちが見学できたのは、病院入ってすぐにある待合室だけでした。待合室といっても、屋外にベンチと屋根があるだけの簡易的なものでした。建物全体も、日本の病院のような清潔感はなく、まるで保育園のような雰囲気、日本の病院とのギャップに驚き、日本は本当に恵まれているのだということを実感しました。

【歴史・文化散策】

私たちは今回の研修で様々な観光地に行きました。この写真はアンコールワットでのものです。アンコールワットは12世紀に建てられたクメール王朝の寺院です。（日本では鎌倉時代！）当初はインドの影響でヒンドゥー教寺院でしたが、現在は仏教寺院になっています。

こうした観光地では思い出に残る楽しい経験をする事ができた反面で、同じ国内での貧富の差を垣間見るときもあり厳しい現実を実感しました。自分たちの生活がどれだけ裕福なものなのか考える良い機会になったので貴重な経験になりました。

（現2年 女子）

